

「令和7年度 オンライン日本語講座運営業務」に係る質問書に対する回答

質問項目	質問内容	回答
授業	授業の時間帯に指定はありますか。	受講想定者の受講可能な時間帯を検討中です。講座の時間帯については受託事業者と協議の上決定します。
授業	授業の実施日は土日祝日を避ける必要や、連続した日で実施しないなど、ルールはありますか。	一つのコースが全24回を2か月の予定であるため、土曜日でも実施となる可能性が高いですが、日曜日は実施しないことを想定しています。いずれにせよ、講座の日程については、選定業者と協議の上決定する予定です。
授業	授業の時間2時間と記載されていますが、休憩も入れて2時間でしょうか？それとも120分休憩なしで授業を行う想定でしょうか？	最低限確保すべき授業時間数のため、休憩時間は含めません。別途リフレッシュする時間を設けていただくことは可能です。
授業	A2前期の終わりとA1後期の始まりの月が11月で実施期間が被りますが、授業の時間帯を調整しても良いでしょうか。	A1の時間帯とA2の時間帯は、異なる時間帯とする予定です。講座の時間帯については受託事業者と協議の上決定します。
授業	コースに、「自宅学習」の時間が設けられていますが、自宅学習というのは、宿題を出す、オンラインツールやアプリで行う、自宅学習をするように呼び掛けをする、などのような形を想定されているでしょうか。	宿題の形を想定しています。
教材	テキスト及び附属教材を言語ごとに印刷して事前に送付が必要でしょうか？	学習者ごとに対応言語のテキストを送付する必要があります。
教材	上記の場合、ページ数が数百ページあるため事前に全言語を印刷することができません。学習者情報を収集して言語が判明してから発行する期間ほどの程度あるでしょうか。	受講者の言語判明から発行までの期間は、1～2週間程度を見込んでおります。
教材	初級コース（A2）で初級1と初級2を使うようにしていますが、A1を終了していない人がA2の学習は難しいと思われます。初級コースA1のみ使用しても問題ないでしょうか？	入門コース（A1）を修了した人、またはレベル判定でA1をクリアした人のみが初級コース（A2）の受講を可能とする予定です。入門コースにおけるテキストが『入門（A1）』、初級コースにおけるテキストが『初級1（A2）』となることを想定しています。
教材	「受講者の言語に対応した『いろいろ生活の日本語 入門（A1）』、『いろいろ生活の日本語 初級1（A2）』、『いろいろ生活の日本語 初級2（A2）』（いずれも独立行政法人国際交流基金日本語国際センター編著）を使用すること。」とありますが、初級コース（A2）において、『いろいろ生活の日本語 初級1（A2）』、『いろいろ生活の日本語 初級2（A2）』両方を網羅しなければならないでしょうか。例えばカリキュラム進度によって、『いろいろ生活の日本語 初級1（A2）』のみの使用とすることは可能でしょうか。	初級コース（A2）については、両方のテキストを網羅する必要はありません。カリキュラム進度によって、使用テキストを『いろいろ生活の日本語 初級1（A2）』のみとすることも可能です。
能力評価	レベルチェックは「つながるひろがる にほんごでのくらし」上の「自分に合ったレベルを探そう」を利用して評価するというのでしょうか。それとも、このサイト（ https://tsunagarujp.mext.go.jp/question/level01 ）の内容を踏まえた自社作成のレベルチェックツール*を用いて評価をしてもよいのでしょうか。	日本語教育の参照枠の基準に準拠したレベル判定であれば、貴社作成のレベルチェックツールを用いることも可能です。
能力評価	各コースの終了時に行う能力チェックは、受講開始前と同じツールを使用する想定でしょうか。それとも別の方法でのチェックでも良いのでしょうか。	基本的にはコース開始時のレベル判定と同じものを使用する想定ですが、その他独自の方法での評価を行っても構いません。
応募	申込書及び申込フォームとありますが、申込書は多言語で手書き記入されたものをデータ化するのが困難のため、申込フォームのみでもよろしいでしょうか？	原則的に申込書及び申込フォーム両方を作成いただくことを想定していますが、受講希望者の利便性に照らし、申込フォームのみでも支障がないと認められる場合には、協議の上で申込フォームのみとすることも可能です。
応募	応募者が多い場合は抽選になりますでしょうか？選考の条件はこちらで決めてよろしいでしょうか？	応募者多数の場合の受講者決定方法は、選考とします。選考時の条件は県が定めまします。
評価基準	「実施方針に業務成果を高めるための工夫が見られるか。」こちらは業務成果でしょうか？授業効果でしょうか？	本委託事業の目的及び各コースの目標を達成するための工夫が、講座内でなされているか否かを評価基準とします。
評価基準	「多言語での対応体制が整っているか。」こちらはサポートのことでしょいか？問い合わせ対応のことでしょいか？	問い合わせ対応やオンライン接続時等のサポート対応に係る体制を評価します。
評価基準	審査の評価基準で「オンライン上の運営フォーマットは日本語初学者である受講者が受講しやすいように工夫されているか」とのことですが運営フォーマットとは何を示されているのか具体的に教えてくださいいただけますでしょうか。	申込フォームや講座時のweb会議ツールを指します。
その他	今までオンライン日本語教室の運営をされた際にどの国の方、働く人が多いのか、それとも生活者が多いのでしょうか。	佐賀県におけるオンライン日本語講座の実施は、今年度が初めての取り組みとなります。受講者としては、働く人の家族や、日本人の配偶者を想定しています。
その他	「オンラインツール」というのは、学習管理システム（LMS）を指しますか。あるいは単に学習に必要なファイルがダウンロードできたり、運営からの案内情報を掲載したりする場として必要でしょうか。いずれにしても、弊社が運営中の学習管理システム（LMS）のアカウント発行でもよいでしょうか。新規にシステムを用意する必要がありますか。	オンライン講座の実施に必要な会議アプリツールや管理システムを指します。事業内容に沿った動作が可能なものであれば、新規にシステムを用意いただく必要はありません。